

地球温暖化及び自然エネルギー・家庭でできる節電を学びました！

< 10月28日相沢小学校 >



▲家庭でできる節電についての講義

瀬谷区にある相沢小学校5年生70名が、「地球温暖化及び自然エネルギー・家庭でできる節電」を受講しました。

主催はNPOソフトエネルギープロジェクト。地球温暖化を防ぐため、市民自らができるCO₂の削減のため、普及・啓発活動を進めています。

■音楽室でクイズを交えながらの講義。

温室効果ガスであるCO₂を出しすぎてしまうと地球全体が暑くなってしまいます。その結果、洪水や台風、海面上昇などを引き起こしてしまう原因となってしまうことを児童たちに説明します。

日本から遠いアフリカのセネガルでは「温暖化により砂漠化が進んでいます。村に水道の蛇口が1つしかない。しかも、その水道水は、1日1回しか使うことができない現状が世界にはあります」と活動から感じたことを佐藤代表が児童たちに伝えます。

私たちが住む日本以上に温暖化の影響を受けている国々がある世界にはあること。私たち一人一人が節電などの行動を積み重ね、温暖化を防がなければいけないと児童たちに語りかけました。

その後、DVDの映像を見て家庭でできる節電を学習しました。エアコンの冷やし過ぎや電気をつけっぱなしにする映像が流れると、児童たちから「もったいない！」の声が飛び交いました。児童たちの節電に対する意識が向上したようです。

■校庭で各種ソーラー機器を使った体験学習



▲ソーラーパネルで発電し、白熱電球・電球型蛍光灯・LED電球の消費電力を確認

児童たちがソーラーグッズに触れ、ソーラークッカーでの料理を体感することで、太陽の熱や光を利用したエネルギーを学ぶことができます。

NPO ソフトエネルギープロジェクトの所有する環境教育体験車「NEO号」。車上に設置されているソーラーパネルに太陽光があたると最大で1枚1時間あたり126wの電力をつくることができます。3枚設置してあるので378Wですが、実際には80%ぐらい発電します。

NEO号で作られた太陽光発電の電力を使って白熱電球・電球形蛍光灯・LED電球を点灯して、測定器で消費電力の違いを実験します。白熱電球の約9分の1の電力で点灯するLED電球。消費電力の少なさを「見える化」により確認できます。



▲経験豊富なスタッフがソーラーパネルや手回し発電機などを実演▲

ソーラークッカーを使いフライパンでウィンナーを焼いて太陽の熱の強さを感じ、手回し発電機で電球を光らせるなど、電気エネルギーを作る大変さを児童自ら学びました。太陽の光は電気に使い、太陽の熱はガスの代わりに調理が出来る事を学びました。

さらに、ヘリコプター・バッタなど小型ソーラーパネルを設置し動く模型に、遊び心を持ちながら太陽光の持つエネルギーを学びました。



▲小型ソーラーパネルにより動くヘコプター（左）とバッタ（右）

最後に児童たちから今日感じことを発言しました。

「太陽光や熱の力がとても強いことがわかった」「手回し発電は小学生が一生懸命回してやっと3Wなので、例えば100Wのテレビを見るのには、33人が一生懸命回さなければいけない。電力を作ることの大切さがわかりました」「料理をする時などいろいろな工夫をすればエコになるのがわかった」などたくさんの感想がありました。

担当教諭から「地球にやさしいエコな行動を今すぐ実践していきましょう！」との呼びかけに、児童たちは節電への思いをより一層強めたようです。



▲最後に児童たちから今日の感想と質問